

# 財政の健全化判断比率と 公営企業の経営健全化判断比率

平成28年8月 企画財政課

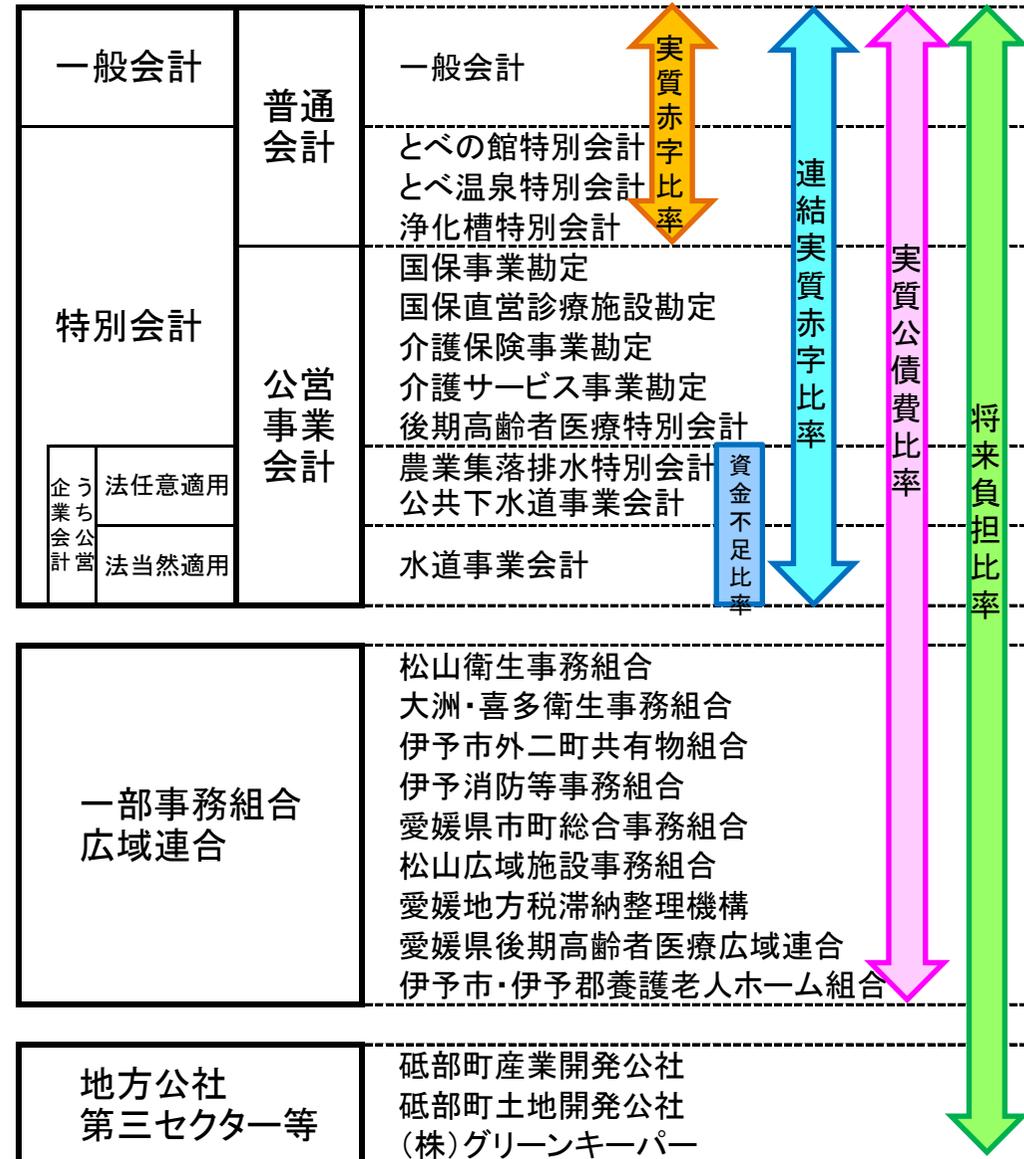
# 第1 財政健全化法の概要

## 1 健全化判断指標と会計の対象範囲

財政健全化法\*の規定に基づき、毎年度、次の指標を算定する。

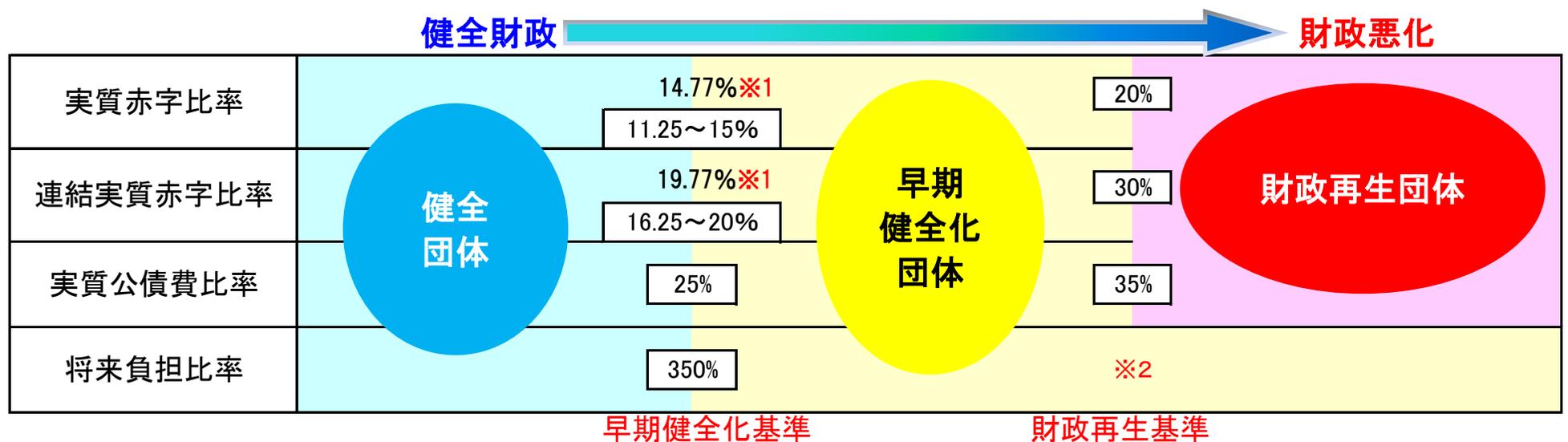
指標	内容
実質赤字比率	普通会計の実質赤字が標準財政規模に占める割合
連結実質赤字比率	全会計の実質赤字が標準財政規模に占める割合
実質公債費比率	一般会計等が負担する公債費が標準財政規模に占める割合
将来負担比率	一般会計等が将来負担すべき債務が標準財政規模に占める割合
公営企業の経営健全化比率	資金不足額が事業規模に占める割合

\*正式名称を「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法第94号)」という。



## 2 判断基準と基準超過団体、及び議会や監査委員との関係

比率から財政の悪化を判断する基準は、「早期健全化基準」と「財政再生基準」の二つがある。



### 公営企業会計の経営健全化基準

資金不足比率	健全団体	20%	経営健全化団体
--------	------	-----	---------

※1 市町村の早期健全化基準は、財政規模に応じて異なり、数値はH27年度のもの。  
 ※2 将来負担比率に財政再生基準はない。

- 早期健全化団体になると→財政健全化計画を策定し、計画に基づく財政健全化を行う。
- 財政再生団体になると→財政再生計画を定め、計画に基づく財政再建に取り組む。  
 →税金や公共料金の増額、住民サービスの見直しを行う。  
 →総務大臣の許可が無ければ、地方債の発行ができなくなる。
- 公営企業が経営健全化団体になると→経営健全化計画を策定し、計画に基づく経営健全化を行う。
- 各指標の数値は、監査委員の審査を受けたうえで議会に報告し、公表する。(法第3条、第22条関係)
- 財政健全化計画、財政再生計画を策定した際は、議会が議決し、住民に公表する。(法第5条、第9条関係)
- 早期健全化、財政再生団体は、計画を策定するにあたり、財政健全化のために改善が必要と認められる事務の執行について、外部監査\*を受けなければならない。(法第26条関係)

\*監査委員による監査と別に、外部の目でチェックを行う監査。監査人には、公認会計士、弁護士、税理士などがなる。

## 第2 砥部町の状況

### 1 決算に基づき計算した砥部町の健全化判断比率

一般会計等の経営健全化判断比率

	砥部町					健全化判断基準		備考
	H23	H24	H25	H26	H27	早期健全化基準	財政再生基準	
実質赤字比率	-	-	-	-	-	14.77%	20%	6億4,222万3千円の黒字
連結実質赤字比率	-	-	-	-	-	19.77%	30%	15億4,005万1千円の黒字
実質公債費比率	7.3%	6.8%	5.5%	3.8%	2.3%	25%	35%	
将来負担比率	-	-	-	-	-	350%		

※「-」は、該当が無いことを表している。

公営企業会計の資金不足比率

	経営健全化判断比率	備考(砥部町の状況)
公共下水道事業会計	資金不足比率20%	3億4,683万円の剰余金
農業集落排水特別会計		4万1千円の剰余金
水道事業会計		3億1,359万1千円の剰余金

公共下水道事業会計、農業集落排水特別会計、水道事業会計の実質赤字は、資金不足額で判断する。  
すべての会計で剰余金が出ているため、実質赤字は該当なし。

● 実質赤字比率と連結実質赤字比率については、普通会計は6億4,222万3千円の黒字、町全体の会計を連結した収支でも、15億4,005万1千円の黒字となり、「該当なし」となっている。

● 実質公債費比率は、2.3%で前年度(3.8%)と比較すると△1.5ポイントとなっている。

→ 実質公債費比率が下がった要因は、地方債発行の抑制による元利償還の減(△1億5,797万1千円)によるもの

\* P5「総括表③」参照。

● 将来負担比率は、前年度と同じく0%である。

→ 学校給食センター改築事業の開始、公共下水道の事業拡大、水道事業の8次拡張事業による将来負担額の増加を、組合負担等見込額と退職手当負担見込額の減少で相殺する形(440万1千円)となったが、基金の取り崩しと公営住宅家賃収入の充当減により充当可能財源が減少(△1億5,147万6千円)し、将来負担率は3.6ポイント増加している。将来負担比率を算出する将来負担額から充当可能財源等を控除した額は昨年度より減少し、△4億3,226万2千円となり、将来負担比率は0%を維持している。

\* P7「総括表④」参照。

## 2 実質公債費比率 総括表③

単位：千円

実質公債費比率の算定式

$$= \frac{(A + B) - (C + D)}{E - D}$$

<b>A</b>		<b>B</b> 地方債の元利償還金に準ずるもの			<b>C</b>		<b>D</b>	
地方債の元利償還金 (繰上償還等を除く。)		公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てられたと認められる繰入金	一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの等	元利償還金等に充てられる特定財源		普通交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金	
25年度	794,748	89,781	19,630	8,348	20,655	※公営住宅使用料		
26年度	757,936	90,273	24,252	7,938	19,714			
27年度	599,965	109,564	25,392	413	972			
							706,862	
							773,589	
							676,180	

<b>E</b> 標準財政規模 (標準税収入額等 + 普通交付税額 + 臨時財政対策債発行可能額)		<b>D</b> 普通交付税の額の基準財政需要額に算入された地方債の元利償還金	
25年度	2,399,533 + 2,576,106 + 381,272	5,356,911	706,862
26年度	2,404,109 + 2,581,727 + 378,388	5,364,224	773,589
27年度	2,511,934 + 2,501,926 + 348,669	5,362,529	676,180

24年度	184,990
25年度	87,096
26年度	58,182

≪結果≫

25年度	3.97824
26年度	1.89725
27年度	1.24152
<b>実質公債費比率</b>	<b>2.3</b>

24年度	4,650,049
25年度	4,590,635
26年度	4,686,349

### ■分子

- ・A+B …… 元利償還金と準元利償還金の合計
- ・C+D …… 元利償還に充てられた特定財源と交付税措置された地方債の合計  
→ 特定財源：起債した事業から得られる収入を地方債償還に充てる財源としたもの  
→ 交付税措置された地方債：地方債の償還については、普通交付税として国から措置されるものもある。
- ・(A+B)-(C+D) …… 実質的な元利償還金  
→ 特定財源と交付税措置される地方債の合計額を控除することで実質的な元利償還金を算出する。

### ■分母

- 標準財政規模から交付税措置される地方債を控除した額を分母として割合を算出。

## B:地方債の元利償還金に準ずるもの(準元利償還金)

- ・ 公営企業地方債の償還の財源に充てられたと認められる繰入金→下記「3②表」より
- ・ 一部事務組合等の地方債に充てられたと認められる補助金、負担金→一部事務組合等からの提出資料より
- ・ 公債費に準ずる債務負担行為→債務負担行為の状況調べより

※企業会計で債務負担行為を起こすことがあるが、一般会計等からの繰出金を充当しない場合は対象外となっている。

<3②表> 公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金

(単位:千円)

団体名	特別会計名	公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金		
		25年度	26年度	27年度
砥部町	水道事業会計	26,828	5,778	5,510
	公共下水道事業会計	37,926	59,059	78,745
	農業集落排水特別会計	25,027	25,436	25,309
	介護保険特別会計(サービス)			
	介護保険特別会計(事業勘定)			
	国民健康保険(事業勘定)			
	国民健康保険(施設勘定)			
	後期高齢者特別会計			
	合計※	89,781	90,273	109,564

P5「総括表③」の  
Bの額へ転記

### 3 将来負担比率 総括表④

総括表④ 将来負担比率の状況

団体名 **愛媛県砥部町**

将来負担額	地方債の現在高	債務負担行為に基づく支出予定額	公営企業債等繰入見込額	組合等負担等見込額	退職手当負担見込額	設立法人の負債額等負担見込額	連結実質赤字額			組合等連結実質赤字額負担見込額
							地方道路公社	土地開発公社	第三セクター等	
	6,270,622	0	3,665,008	244,687	564,157	0	0	0	0	0
(分母比)	134		78	5	12					

充当可能財源等			
充当可能基金	充当可能特定歳入	うち都市計画税	基準財政需要額算入見込額
3,608,159	115,008	0	7,453,569
(分母比) 77	3		159

将来負担額 = 10,744,474 千円

将来負担額 A	229	—	充当可能財源等 B	239	A - B	-9	将来負担比率 (%)
10,744,474			11,176,736		-432,262		
標準財政規模 C				算入公債費等の額 D		C - D	
5,362,529	114	—	676,180	14	4,686,349	100	-9.2

P5「総括表③」参照

- ・地方債残高は、前年度より8,964万1千円増加。
- ・充当可能基金は、前年度より1億143万1千円減少。

## A:将来負担額

ア 一般会計の起債残額 62億7,062万2千円

イ 債務負担行為に基づく支出予定額 0円(オレンジ荘建設費償還終了)

→リース資産は非該当。(地方債償還や転貸債とは性質が異なるため)

※1 決算監査資料より	
農業集落排水特別会計	193,378千円
公共下水道事業会計	3,317,487千円
水道事業会計	1,372,661千円
企業会計 計	4,883,526千円

ウ 一般会計以外の地方債の元利償還に充てる一般会計等の負担見込額

→起債残高 48億8,352万6千円※1、うち将来負担額 36億6,500万8千円

エ 加入する組合等の地方債の元利償還に充てる負担見込額

→起債残高 14億663万3千円※2、うち将来負担額 2億4,468万7千円

※2 健全化4④表より	
伊予市・伊予郡特別養護老人ホーム組合	347,417千円
伊予消防等事務組合	1,059,216千円
一部事務組合 計	1,406,633千円

オ 退職手当支給予定額のうち、一般会計等の負担見込額

→特別職を含む一般会計等の職員160人が退職した場合の退職手当は、12億6,841万円必要となる。愛媛県市町総合事務組合に積み立てている7億425万3千円を控除した5億6,415万7千円が将来負担額となる。

カ 町が設立した法人の債務を負担している場合の一般会計等の負担見込額

→該当法人は、砥部町土地開発公社、砥部町産業開発公社、(株)グリーンキーパーであるが、債務補償をしている団体はない。

キ 連結実質赤字なし

ク 組合等の連結実質赤字相当額のうち、一般会計等の負担見込額なし

**B: 充当可能基金**

団体名 **愛媛県砥部町**

4⑧表 地方債の償還額等に充当可能な基金

(単位:千円)

基金名	基金計(1) (2)+(4)+(6)	現金・預金(2)	国債・地方債 ・政府保証債 等(4)		その他(6)			充当可能基金 (9) (2)-(3)+(4)-(5)	(構成比)
			うち要返還額(3)	うち要返還額(5)	うち貸付金(7)	うち不動産(8)			
財政調整基金	1,454,088	1,454,088						1,454,088	40.3
減債基金	0	0						0	0.0
ふるさと創生基金	369,264	369,264						369,264	10.2
福祉基金	13,968	13,968						13,968	0.4
とべの館運営基金	184,830	184,830						184,830	5.1
とべ温泉運営基金	1	1						1	0.0
奨学基金	30,811	20,430			10,381	10,381		20,430	0.6
ふるさと水と土保全基金	20,542	20,542						20,542	0.6
浄化槽保守点検事業運営基金	47,835	47,835						47,835	1.3
浄化槽町有施設管理基金	94,647	94,647						94,647	2.6
高齢者保健福祉基金	299,587	299,587						299,587	8.3
国民健康保険事業運営基金	0	0						0	0.0
介護保険事業運営基金	107,906	107,906						107,906	3.0
坂村真民記念基金	7,898	7,898						7,898	0.2
公共施設更新準備基金	987,163	987,163						987,163	27.4
小計	3,618,540	3,608,159	0	0	0	10,381	10,381	0	100

貸付部分は控除

**B: 充当可能基金**  
※P7「総括表④」のBの額へ

(分母比)

## C:特定財源見込額

### 4⑨C表 地方債の償還額等に充当可能な特定の歳入見込額③

団体名 **愛媛県砥部町**

#### 6 その他将来負担額に充当可能な特定の歳入

(単位:千円)

その他特定の歳入の名称(1)	種類	地方債の現在高等(2)	充当が確実である額(3)	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平均充当率(4)	充当見込上限額(5)	充当見込額(6)
				充当実績額	元金償還金等	充当率	充当実績額	元金償還金等	充当率	充当実績額	元金償還金等	充当率			
		0	0	0	0	-	0	0	-	0	0	-	-	0	
				特定歳入の概要											
		合計	0											合計	0

#### 総括表(特定の歳入見込額)

(単位:千円)

1 国庫支出金等	2 転貸債に係る償還金	3 公営住宅の賃貸料等	4 都市計画税収	5 土地開発公社に対する貸付金の償還金	6 その他特定の歳入	特定の歳入見込額(合計)
0	0	115,008	0	0	0	115,008

(分母比) 4.1 4.1

地方債の償還に充てられる公営住宅賃貸料  
算定は公営住宅建設に充当した起債の残額に過去3年間の家賃の平均充当率により算出する。

C:特定財源見込額  
※P7「総括表④」  
のCの額へ

D：基準財政需要額に算入される地方債

4⑩表 基準財政需要額算入見込額・総括表(市町村分)

(単位:千円)

費目	測定単位	算入見込額
1 消防費	人口	5,880
2 道路橋りょう費	道路の延長	6,044
3 (1) 港湾費(港湾)	外郭施設の延長	
	(2) 港湾費(漁港)	外郭施設の延長
4 都市計画費	都市計画区域人口	
5 公園費	人口	
6 下水道費	人口	1,009,577
7 その他の土木費	人口	
8 小学校費	学級数	133,549
9 中学校費	学級数	9,464
10 高等学校費	生徒数	
11 その他の教育費	人口	
12 社会福祉費	人口	
13 保健衛生費	人口	43,261
14 高齢者保健福祉費	65歳以上人口	
15 清掃費	人口	7,722
16 農業行政費	農家数	202
17 林野水産行政費	林水業従業者数	
18 (1) 地域振興費	人口	17,356
	(2) 地域振興費	面積
19 公債費		6,220,514
合計		7,453,569

(公債費内訳)

19 (1) 災害復旧費	2,765
(2) 辺地対策事業債償還費	
(3) 補正予算債償還費(平成10年度以前許可債に係るもの)	
(4) 補正予算債償還費(平成11年度以降同意(許可)債に係るもの)	28,412
(5) 地方税減収補てん債償還費	
(6) 臨時財政特例対策債償還費	
(7) 財源対策債償還費	161,191
(8) 減税補てん債償還費	113,361
(9) 臨時税収補てん債償還費	20,267
(10) 臨時財政対策債償還費	4,033,260
(11) 東日本大震災全国緊急防災施策債償還費	34,494
(12) 地域改善対策特定事業債等償還費	
(13) 過疎対策事業債償還費	205,775
(14) 公害防止事業債償還費	
(15) 石油コンビナート等債償還費	
(16) 地震対策緊急整備事業債償還費	
(17) 合併特例債償還費	1,620,989
(18) 原子力発電施設等立地地域振興債償還費	
公債費計	6,220,514

D:基準財政需要額算入見込地方債  
※P7「総括表④」のDの額へ

## 4 会計ごとの実質収支と資金剰余金

決算に基づく実質収支と資金剰余金

(単位:千円)

一般会計		普通会計	実質収支	一般会計	585,254	実質赤字比率 642,223	連結実質赤字比率 1,540,051
特別会計				とべの館特別会計 とべ温泉特別会計 浄化槽特別会計	普通会計の計		
		とべ温泉特別会計	7,330				
		浄化槽特別会計	41,202				
うち公営企業会計		公営事業会計	資金不足・剰余金	国保特会(事業勘定)	185,761		
				国保特会(直営診療施設勘定)	19		
				介護特会(保険事業勘定)	39,032		
				介護特会(サービス事業勘定)	6,132		
				後期高齢者医療特別会計	6,422		
法任意適用	水道事業会計	農業集落排水特別会計	41				
法当然適用		公共下水道事業会計	346,830				
				水道事業会計	313,591		
				合計			1,540,051

※「△」の場合が、赤字または資金不足

### 第3 県下の状況

県内市町の財政健全化判断比率クロス表は次のとおりである。

財政健全化判断比率クロス表(平成26年度決算)

